

平成22年度 吉野作造記念館【管理・運営】についての報告

分類	項目	実績内訳
施設管理関係	周辺環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ●シルバー人材センターへ依頼をし、除草作業と雪かき作業を実施。 1) 除草・草刈作業…6月17日、8月26日、9月1日、実施。 2) 除雪作業…12月31日、1月9・13・15・17・23・29・30日、2月1・10・12・15日実施。
	館内清掃	<ul style="list-style-type: none"> ●リフレッシュかむろへ依頼し、館内清掃を実施。 クリーニング・ワックスがけ…年2回(6月21日、11月22日)実施。
	日常整備・清掃	パート清掃職員による館内清掃・除草等の作業実施。
施設管理関係	修繕等 (修繕箇所が見つければ大崎市と協議を行い修繕する)	<p>[大崎市へ修繕を依頼した内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●修繕実施箇所(1項目) 1) 空調排気口付近のネットフェンスの設置 修繕前は、誰でも自由に入出入りすることができ、排気口の破損などがあつたため、ネットフェンスを設置し管理体制を強化した。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ●修繕未実施箇所(7項目) 1) 外灯9本撤去 現在、劣化・破損しているため外灯として使用することができないため、撤去を要請。 (中庭3本・北側庭3本・南側の庭3本の合計9本) 2) 空調排気口ガラスウール・ALKステンレス版交換工事 排気口のつながぎステンレス製のパイプ等がつぶれ、接地面が破損状態のため交換が必要。 (子供たちが自由に入出入りし排気口のつながぎステンレス製のパイプに上がって遊ぶためへこみが多く出来ている) 3) 研修室内空調ダクト(吸込み口延長する)修繕 4箇所ダクト修繕箇所あり。 4) 常設展示室空調機械・研修室空調機械のフィルター交換 開館15年で1度も交換しておらずフィルターが劣化し機械に負担が掛かっています。 5) 常設展示室機材等の交換 ① スライドプロジェクター装置交換(9台) ③ ブック型スクリーン交換。 ② プロジェクター交換(1台) 6) 天井ベニヤ板劣化張替え 正面玄関通路天井ベニヤ板・休憩ラウンジ北側天井ベニヤ板・職員出入口天井ベニヤ板等の張替え 7) 廊下空調修理吸込み口設置 空調機械作動時に、吸い込み口がなく空調機械としての働きを全く行なっていない状況で、温度の調整がうまくできない。 <hr/> <p>[吉野作造記念館が修繕した内容(6項目)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 窓カギ修理 休憩ラウンジ開閉窓の鍵が劣化し遊びが多くなり分解し修繕。 2) スライド映写機部品修繕 劣化によりランプ切れの交換のため出し入れが困難のため、一式(ファンモーター部品、ランプ基盤、モジュールガード)修繕。 3) 休憩ラウンジ雨樋破損修繕 休憩ラウンジ雨樋下部L型の部分が破損したため修繕。 4) スライド映写機ランプモジュールガード内ミラー切換装置修繕 5) ドアカギ修理(機械室から外へ出る開閉ドアの鍵が劣化し錆が出て開かなくなり修繕。) 6) 空調機器修理(常設展示室空調機械のファンベルトとベアリングが劣化のため交換。)
	記念館の管理	<p>1. 各業者別メンテナンス(全7項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 自動ドア(寺岡ファシリティーズ) 年3回の点検(4月22日、8月5日、12月22日点検実施) 2) 受水槽(太平エンジニアリング) 年1回点検(10月18日点検実施) 3) 常設展示室(乃村工芸社) 年1回点検(10月18日点検実施) 4) 消防設備(同和警備) 年2回点検(6月16日、11月22日実施) 5) 館内警備(同和警備) 閉館時の機械警備・現場確認 6) 館内電気関係(東北電気保安協会) 年6回点検 (4月15日、6月15日、8月5日、10月13日、12月14日、2月15日実施。年合計6回点検実施) 7) 館内空調関係(キクチ設備工事) 年1回点検(11月8日点検実施)

平成22年度 吉野作造記念館【管理・運営】についての報告

分類	項目	実績内訳													
	ネット来館者 (ホームページアクセス者)へのサービスを高め増加を図る。	年間を通じて、ホームページで事業の新しい情報提供を行っている。 下記は、ホームページアクセスの集計です。													
		年 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
		H21年	851	1,062	1,281	1,066	1,102	903	968	1,109	887	888	811	701	11,629
		H22年	648	864	967	852	991	890	971	914	739	891	733	581	10,041
		差	-203	-198	-314	-214	-111	-13	3	-195	-148	3	-78	-120	-1,588
一日平均	22	27	32	28	32	29	31	31	24	29	31	18	28		
運営管理関係	講習会への参加	<p>● 講習会参加(3件)</p> <p>1) 5月27日 田中館長、鈴木学芸員、守屋学芸員:平成22年度宮城県博物館等連絡協議会総会・研修会(講演:大学博物館とこれからの学芸員要請)に参加。</p> <p>2) 佐々木職員:ソーシャルビジネス塾5回参加。 講師:古川 隆氏(宮城大学地域連携センター 地域振興事業部 調査研究部長) 11月11日:第一回 実践事例から学ぶソーシャルビジネス。 11月25日:第二回 ビジネスプランづくりのヒント(1)課題 ~現状認識から課題を絞る~ 1月13日:第三回 ビジネスプランづくりのヒント(2)戦略 ~誰に、何を、どう提供するか、戦略を考える~ 1月27日:第四回 ビジネスプランづくりのヒント(3)行動計画 ~何を、どう実現していくか、行動計画をつくる~ 2月24日:第五回 ビジネスプランの発表会 ~全体でのプレゼンテーション~</p> <p>3) 3月10日 鈴木学芸員、守屋学芸員:平成22年度宮城県博物館等連絡協議会・第二回研修会に参加 研修テーマ1:「東北歴史博物館における収蔵展示環境の保全活動 現状と課題」 研修テーマ2:「仙台市博物館の展示リニューアル 効果と課題」 研修テーマ3:「ミュージアムにおけるLED・有機EL照明の動向」 高演色性LED照明を中心とした次世代展示照明等について</p>													
		<p>2. 記念館内での講演・講話依頼 (講師:田中昌亮館長)</p> <p>1) 4月28日:尚絅学院高校2年3組33名に講話。 演題:・基督教と吉野作造 2) 4月29日:東北学院大学 仁昌寺ゼミ学生29名に講演。 演題:・井上ひさしの世界 3) 5月 9日:吉野先生を記念する会10名に講演。 演題:・民本主義と井上ひさし</p> <p>3. 外部での講演依頼状況(講師:田中昌亮館長)</p> <p>1) 8月 1日:「友愛会創立を記念する会」にて記念講演。 演題:鈴木文治・友愛会と吉野作造 会場:ゆうらいふセンター(東京都港区海岸)</p> <p>2) 10月20日:くりはら専門大学にて講演。 演題:吉野作造と鈴木文治 会場:金成教育センター。</p> <p>3) 1月18日:いきいき学園大崎校にて講演。 演題:吉野作造と民本主義 会場:パレット大崎</p>													
	職員の能力向上にいかした活動	<p>1. 職員主導による事業実施</p> <p>GWイベントやサマーイベント、特別企画・写真展で、職員に企画を任せることによって資質の向上を目指し、また、来館者に好評であり、各職員の自信にもつながり人材の層が厚くなった。</p>													

平成22年度 吉野作造記念館【管理・運営】についての報告

分類	項目	実績内訳
運営管理関係	各種研修の受け入れ及び派遣	<p>●受入:小・中・高等学校教諭社会体験研修会のため、1名の先生を3日間受け入れた。 ・職員が担当日に責任を持ち、先生に自分の職務内容を説明し仕事を一緒にして頂いたことにより、記念館の仕事を理解して頂きました。 7月22、23、24日 宮城県立古川高等学校 佐藤 淳教諭受入・研修実施。</p>
		<p>●受入:各大学の博物館実習生研修受け入れ。 ・宮城学院女子大学2名、東北文生活化大学1名の計3名を受け入れ。 8月17日～22日まで守屋学芸員が中心に、実習スケジュールを作成し鈴木学芸員と指導を行った。各職員も手助けしたことで能力アップにつながりました。 佐々木奈美 宮城学院女子大学 3年生 日本文学科 佐藤 瑞花 宮城学院女子大学 3年生 人間文化学科 今野 千尋 東北生活文化大学 3年生 生活美術科</p>
		<p>●派遣・出張(17件)</p>
		1) 4月11日 田中館長:与謝野鉄幹・晶子を偲ぶ会出席の為東京へ出張
		2) 5月25日 中鉢職員、守屋学芸員:菅原伝についての資料調査のため、涌谷町森俊彦氏を訪問。
		3) 6月 8日 中鉢職員、守屋学芸員:涌谷町文化財友の会講演会聴講のため出張
		4) 6月11日 田中館長、中鉢職員:東北学院資料室・博物館、仙台文学館へ出張 資料の調査、太宰治展の見学(企画展の参考の為)
		5) 7月 1日 田中館長:井上ひさし名誉館長のお別れの会に参列のため東京へ出張。
		6) 7月13日 佐藤専務、石ヶ森財務、佐々木職員:読売・吉野作造賞贈賞式
		10) 10月 9日 田中館長:東北学院大学押川記念ホールにて、猪木武徳氏の講演会聴講のため出張 演題「何故人文教育は必要か」
		11) 10月10日 中鉢職員:片平市民センターにて、韓国併合100年吉野作造の朝鮮観に学ぶ集い聴講のため出張。 第一部:朗読と歌 第二部:「吉野作造と関東大震災」(一戸富士雄氏)
		12) 10月14日 田中館長:中央公論文藝賞・谷崎潤一郎賞贈賞式招待状頂き出席のため出張、有楽町「東京會館」にて行われた。
		13) 11月 4日 田中館長:「第7回南原繁シンポジウム『南原繁と日本国憲法』」出席のため出張。
		14) 11月18日 田中館長、中鉢職員、守屋学芸員:金成ハリストス正教会へ企画展時使用の鈴木文治氏の資料借用のため出張。
		15) 12月21日 守屋学芸員:企画展開催の資料借用のため仙台出張。・・・宮城県図書館。
		16) 12月22日 中鉢職員、守屋学芸員:企画展開催の資料借用のため東京出張。 法政大学大原社会問題研究所・友愛労働歴史館
		17) 1月 5日 守屋学芸員:企画展開催の資料借用のため仙台出張。・・・宮城県図書館。
災害・緊急時訓練実施計画	1. 危険箇所全館チェック(年2回) 第1回6月13日～20日に実施。第2回2月8日から3日に実施。	
	2. 危険予知館内講習とビデオにて講習(年1回) 6月8日実施(阪神淡路大震災に学ぶ・地震の知識と対策、他ビデオ2本)。	
	3. 災害マニュアル教育(年2回) 4月21日・2月5日実施(吉野作造記念館災害マニュアル各職員に配布)	
	4. 避難防火訓練(同和警備と連携で年2回) 6月16日・11月17日消火器使用による防火訓練実施。	
	5. 拠点受入教育(年1回) 11月17日拠点受け入れマニュアルによる教育予定。	
	6. AEDの使用手順訓練(年2回) 6月30日に記念館内にて大崎消防署救急隊から心肺蘇生・AED等の訓練を受けた。 3月24日に予定していた心肺蘇生・AED等の訓練は東日本大震災のため中止。	

平成22年度 吉野作造記念館【事業】 についての報告

※「顕彰型・発信型・活字型」の3つに分類し、事業を実施。

■ 顕彰型の事業		目標人数	参加人数	事業進捗状況
企画 展事業	<p>企画展 「吉野作造と 鈴木文治」</p> <p>展示期間 23年1月8日 ～23年3月21日 (震災のため 3月11日で終了)</p>	1,000名	483名	<p>●企画展内容 期間:1月8日(土)から3月21日(月) 名称:「吉野作造と鈴木文治」 ※鈴木文治(日本労働運動の父)没後65年を記念し開催。 展示内容: Ⅰ、鈴木文治の生涯 Ⅱ、吉野作造と鈴木文治 Ⅲ、鈴木文治をめぐる人々 ●入館者: ・1月8日～31日入館者126名(有料61名、無料65名) ・2月1日～28日入館者304名(有料204名、無料100名) ・3月1日～21日入館者53名(有料36名、無料17名) ※捕捉:3月11日東日本大震災により、 3月21日までの展示は中止。</p>
	<p>吉野作造顕彰講座 「新聞で読む 吉野作造」</p> <p>22年12月 ～23年2月 (6回開催)</p>	140名	178名	<p>名 称:吉野作造顕彰講座「新聞で読む吉野作造」 講 師:田中昌亮館長 申込数 :50名(全6回講座延べ人数178名) 受講料 :1,800円</p> <p>●講座内容 [参加人数] ・第1回: 12/12(日)・・・明治の時代 参加者35名 ・第2回: 12/26(日)・・・大正の時代① 参加者28名 ・第3回: 1/16(日)・・・大正の時代② 参加者28名 ・第4回: 1/30(日)・・・昭和の時代① 参加者28名 ・第5回: 2/13(日)・・・昭和の時代① 参加者26名 ・第6回: 2/27(日)・・・平成の時代 参加者33名</p>
研究 調査 事業	<p>吉野作造 研究発行(第7号)</p> <p>第2回吉野作造研究 論文募集入選論文 掲載号</p> <p>22年11月13日 (発行日)</p>			<p>発行名称:「吉野作造研究第7号」 印刷部数:600部(発行済み)、1冊1,000円 掲載内容:公募論文入選者と論文を紹介。 ●最優秀賞1名 齋藤由佳氏 論文:「吉野作造における「婦人」解放論 —山本宣治と比較して—」 ●優秀賞2名 中村敏氏 論文:「吉野作造と朝鮮統治に関する考察」 朱 琳氏 論文:「二つの中国認識 —吉野作造と内藤湖南」</p>
	<p>吉野作造 論文募集(第2回)</p> <p>二次審査 締切り 22年6月30日</p> <p>結果通知 22年8月中旬 まで通知</p>		8名	<p>論文募集テーマ:「吉野作造の思想並びに業績について」 審査員:太田雅夫氏、祇園寺則夫氏、田中昌亮(当館館長) 賞金:最優秀賞(1名)20万円(講演料含む) 優秀賞(2名)各5万円 一次審査通過者10名(県内1名、県外8名、海外1名) 二次審査締切り:6月30日 提出者8名(2名辞退) 二次審査:8月4日 二次審査結果発表:8月中旬まで本人に通知。</p>
	<p>資料収集 保存登録</p>			<p>寄贈・購入資料情報館登録件数 (4～3月: 164件、トータルでの登録 4,379件)</p>
小 計		1,140名	669名	※参加人数は来観者数とは一致しません

■発信型の事業		目標人数	参加人数	事業進捗状況
人材育成事業	中学・高校 出前講座 22年4月～ 23年3月	240 名	208 名	事業内容: 大崎市内の中学・高校を対象とし、教科書で吉野博士を学ぶ時期に、勉強の機会を作ってもらい、こちらから出向いて行う講座事業。 ●出前講座の営業活動実績(11件の中学校を訪問) ・10月15日:①〔古川北中学校〕 ・11月 5日:①〔三本木中学校〕 ・11月18日:①〔鹿島台中学校〕 ・11月19日:①〔田尻 中学校〕 ②〔松山 中学校〕 ・12月15日:①〔古川 中学校〕 ②〔古川東中学校〕 ・12月16日:①〔古川西中学校〕 ②〔中新田中学校〕 ・ 1月20日:①〔岩出山中学校〕 ・ 2月 4日:①〔古川南中学校〕
	小・中学生 招館事業 22年4月～ 23年3月			●出前講座実施中学校実績 (2件の中学校にて出前講座実施) 講師:鈴木光太郎学芸員 ・12月9日:古川北中学校(2年生83名→クラスごとに3クラス) ・1月28日:田尻中学校(2年生125名視聴覚室にて)
小中学校招館事業 以外の来館校			28 名	●招館事業以外での来館小中学校 ・北浦小学校6年生28名 引率2名 合計30名
人材育成事業	吉野ネットワーク 交流事業 「人材育成研修会」 (第4回) 22年 9月4・5・6日 (2泊3日)	15 名	125 名	●講 師:8名 猪木武徳氏 :国際日本文化研究センター所長 御厨 貴氏 :東京大学先端科学技術センター教授 阿川尚之氏 :慶應義塾大学総合政策学部教授 苅部 直氏 :東京大学大学院法学政治学研究科教授 清水唯一朗氏:慶應義塾大学総合政策学部准教授 奈良岡聰智氏:京都大学大学院法学研究科法学部准教授 小川原正道氏:慶應義塾大学法学部准教授 大川 真氏 :東北大学助教 ●学生リーダー:1名 手嶋泰伸氏 :日本学術振興会特別研究員 ●学生:20名 東北大学11名(2名キャンセル)、京都大学3名、慶応大学6名 合計29名 ●テ ー マ:「吉野作造と現代」 9月4日 オリエンテーション(研修室にて)来賓:4名、一般聴講者:92名(有料) シンポジウム「吉野作造と現代」 第一部 講演:御厨貴氏 演題:「日本に政党政治は根づくのか」 第二部フォーラム 司会:猪木武徳氏 コメンテーター:阿川尚之氏、苅部直氏、奈良岡聰智氏 9月5日 第1セッション 講師:小川原正道氏 講義「吉野作造についての維新と『公道』」 第2セッション 講師:清水唯一朗氏 講義「吉野作造と公論空間—大正期の口述筆記から」 9月6日 公開セッション(一般公開)司会:大川真氏 コメンテーター:苅部直氏、清水唯一朗氏、奈良岡聰智氏、小川原正道氏 学生からの質問、感想発表 講師からのコメント

■ 発信型の事業		目標人数	参加人数	事業進捗状況
オピニオホール事業	読売・吉野作造賞 受賞者講演会 および展示 講演会開催 22年10月2日	300名	61名	●読売・吉野作造賞贈賞式(7月13日)へ出席し講演依頼。スピーチの様子を記録。 出席:佐藤専務理事、石ヶ森財務理事、佐々木職員 ●講演会の内容 講 師:細谷雄一氏(慶應義塾大学法学部准教授) 演 題:「国際的正義を求めてー吉野作造からトニー・ブレアへ」 受賞著書:『「倫理的な戦争」ートニー・ブレアの栄光と挫折』 料金:有料 ●紹介コーナー設置:読売・吉野作造賞受賞者紹介コーナーに受賞著書、講演DVD設置。
	井上ひさし氏 講演会 (共催事業) ・井上先生逝去 講演会中止 ・6月19日 追悼公演会 追悼展示 22年4月17日 ～9月30日	300名	130名	名誉館長 井上ひさし氏逝去の為、講演会中止。 ●追悼講演会開催 共 催:吉野先生を記念する・吉野作造記念館 講 師:遠藤政広氏(公益財団法人弦地域文化支援財団 事務局長) 演 題:遅筆堂文庫物語ー小さな町に大きな図書館と劇場ができたー 入館無料:入館者130名
		800名	1,626名	●名称:「井上ひさし名誉館長をしのぶ」展示。 (館内に井上名誉館長の紹介コーナーと記帳台を設置した。) ・4月17～30日入館者152名(有料131名) ・5月1～31日入館者203名(有料183名) ※GWイベント入館者は含まない。 ・6月1～30日入館者166名(有料149名) ※遠藤征広氏講演会入館者含まない。 ・7月1～31日入館者456名(有料71名) ※サマーイベント入館者は含まない。 ・8月1～31日入館者314名(有料223名) ・9月1～30日入館者333名(有料156名)
	入選論文発表会 授賞式 22年11月13日		34名	第二回「吉野作造研究賞論文授賞式」 授賞式内容:吉野作造記念館研修室にて入選者の表彰式を行う。 審査委員長太田雅夫氏より審査報告あり。 最優秀賞者…齋藤由佳氏 講演をして頂く。 優秀賞2名…中村 敏氏、朱林氏 ※入選論文は「吉野作造研究 第7号」へ掲載した。
広報事業	記念館だより発刊 23年4月1日 発行			発行名称:「吉野作造記念館だより 第19号」 体 裁:A4サイズ、2色刷り、全8ページ、52,000部印刷 主な掲載内容:吉野作造と鈴木文治、実施事業の紹介、井上ひさし名誉館長を偲んでの紹介ページ 主な配布先:大崎市内へ全戸配布
	インターネット活用 システム整備			ホームページに「メールマガジン機能」を追加し、 当館の情報を定期的に配信した。
発信型事業 小計		1,655名	2,242名	※参加人数は来観者数とは一致しません

■活用型事業		目標人数	参加人数	事業進捗状況
市民交流事業	GWイベント 22年5月3日 ～5月5日	750名	954名	<ul style="list-style-type: none"> ●GWイベント事業内容： <ol style="list-style-type: none"> ①工作コーナー(木のキーホルダー作り・けん玉作り・バルーンアート等の工作) ②お楽しみ劇場(中国の手品師チンパイさんのマジックショー、紙しばい・なんでもなおすお医者さん等) ③みんな集まれ「遊びの森」(つりゲーム・わなげ・ボーリング景品付) ④アニメ上映(アラジンとまほうのランプ・楽しいムーミン一家・ピーターパン等) ⑤つくろう! おおきなこいのぼり ⑥休けいらウンジ「よしのや」(駄菓子・ジュース・わた飴等の販売) ●入館者 5月3日入館者336名 5月4日入館者161名 5月5日入館者457名 合計954名
	サマーイベント 22年7月31日	300名	343名	<ul style="list-style-type: none"> ●サマーイベント事業内容:5 <ol style="list-style-type: none"> ①「お楽しみ劇場」(人形劇昔ばなし「こぶとりじいさん」「カエルのピッキー」,「かわいいそうなぞう」) ②「ワークショップ」(手紙に添える・香りを添える。) ③「小学生あつまれ!! O・Xクイズ ④「七夕手作りコーナー」(色つきの画用紙に、折り紙とクレヨンを使って七夕の絵を描く。) ⑤「きゅうけいコーナー」 参加者数:343名(7月31日のみ参加者)
	夏休み特別展 22年7月27日 ～9月12日		556名	<ul style="list-style-type: none"> ●夏休み特別展:知ろう!学ぼう!吉野作造 クイズラリー 館内に隠されているクイズを見つけて答えよう!! 参加者数→556名(7月31日入館者を含まない)
	連携事業 (共催事業) 風のアトリエ かぜのこ 22年7月18日～25日	160名	365名	<ul style="list-style-type: none"> ●共催:風のアトリエかぜのこ、吉野作造記念館 ●展示名称:子供のアトリエかぜのこ夏の作品展 「ミンナdeアート」を開催。 開催日:7月19日～25日 入館者365名
	平和アニメ 上映会& 写真展 22年7月21日 ～25日			<ul style="list-style-type: none"> ●主催:大崎市政策課 親子平和アニメ上映会&平和のための写真展開催 (当館の研修室・企画展示室を使用し展示) ●共催:大崎市教育委員会、吉野作造記念館 ●対象:市内小中学校の児童生徒と保護者 ●入館料→無料 ●入館者150名(アトリエかぜのこ含まない)
広報活動			<p>報道機関を対象に各事業開催について記事の依頼、チラシによるPRを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展、顕彰講座、GWイベント、テーマ展示、吉野ネットワーク交流会、吉野作造研究賞公募論文、サマーイベント等。 ・連絡マスコミ→大崎タイムス、河北新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、NHK、東北放送、宮城テレビ、東日本テレビ、大崎ケーブルテレビ。 	
その他	常設展示見直し			<p>状況:大崎市との協議を実施。 今後の映像機械修繕に向けて話し合いを継続中。</p>
	記念館友の会 読売吉野作造賞 招致			
	ラウンジ活用 オピニオン			
活用型事業 小計		1,210名	2,218名	※参加人数は来観者数とは一致しません
事業 合計		4,005名	5,129名	目標人数 4,005名 :実績 5,129名